

## わが古里の瞬間の美を撮り続け

ニコンの一眼レフカメラを片手に、町の景色を切り取り続けている山来敬明さん。本紙の「Mashiki Photography」でもたびたび掲載され、熊日写真展や他のコンテストでも多数入賞を果たす腕前です。

木山校区で生まれ育った山来さんは40年ほど滋賀県で暮らし、退職した10年前にUターン。現役時代からの趣味のカメラ撮影で古里を撮るようになり、雨の日以外はほぼ毎日出かけるそうです。

「早朝に起き出して、今日はどんな出合いがあるだろうかとワクワクします」と言う山来さんは、と

てもファンタジックな体験をしました。

2年前の12月早朝のこと。赤井地区から飯野方面に流れる藻川の朝もやを撮影しようとして、2羽の白鳥を見つけたそうです。その日以来、山来さんは毎朝白鳥たちに出会いにそこへ出かけました。

3カ月ほどが過ぎた去年の2月23日の天皇誕生日の朝でした。いつものようにやって来ると白鳥たちは突然、山来さんを取り囲むようにグルグルと3周ほど歩き回ると、それから木崎地区の荒帆神社の上空へと飛び立っていったそうです。「シャッターを切りながら、その神々しさに胸が震えました。きつと私に『ありがとう』と告げて、ベストショットをプレゼントしてくれましたのでしょ」と、その

時の思いを募らせませます。

## 秋津川の古代ハスを守って

木山橋からの夕日を撮影するという山来さんと同行しました。すると、「日没まで少し時間があるから、その前に古代ハスの様子を見に行きます」と山来さん。

秋津川沿いに根を張る古代ハスの美しさは本紙表紙でも紹介しましたが、実は山来さんを始めとする数人の有志の皆さんがボランティアで、水や状態を管理しているとのこと。山来さんは「今夏は多くの方々が見に来られました。古代ハスもさぞや、うれしかったことでしょう」と目を細めます。

やがて、西の空に太陽が沈もう

とする時刻、山来さんは秋津川のほとりで腰をかがめ、シャッターチャンスを狙いました。



木山橋の夕暮れを狙った山来さんの写真



上/山来さんが出合った2羽のオオハクチョウが飛び立つ様子(山来さん提供)



右/雨の日以外は撮影に出かけるという山来さん  
下/山来さんたちがお世話をしている秋津川河川の古代ハス(山来さん提供)



## 散歩の終わりに

開通した木山橋から夕日を眺めました。立ち並ぶ住宅の屋根に沈んでいく黄金の光は、季節が進むと秋津川の真ん中に沈みます。

「季節や時間、天候によって一つとして同じ景色には出合えません。携帯のカメラでいいから、空や景色、植物に目を向けてシャッターを押すと、あらためて古里の魅力を発見しますよ」と言った山来さんの言葉が心に残ります。

